



マイクロレデンシャル活用実践シンポジウム2026 ～宇宙商社が目指すマイクロレデンシャル活用～

Space BD 前田



所属

教育事業ユニット マネージャー

経歴

- 慶應義塾大学 理工学部 機械工学科 卒業
 - ヒト足裏の皮膚の伸びを計測していました
- 株式会社リクルート
 - HR領域で採用設計支援、プランナー、コピーライター、サービス開発を行っていました
- atama plus株式会社
 - プロダクト開発、UX設計を行っていました
- Space BD株式会社
 - 教育、人材開発領域の事業開発を行っています
 - 特に、「宇宙産業の人材不足」に対する課題を解決すべく、日々取り組んでいます



はじめに



宇宙産業の「今」



マイクロクレデンシャル活用

はじめに

「宇宙を自在に、熱く誇れる産業を。」

設 立 : 2017年9月

(2014年9月5日設立のナガサキ・アンド・カン
パニー株式会社の社名変更)

拠 点 : 東京

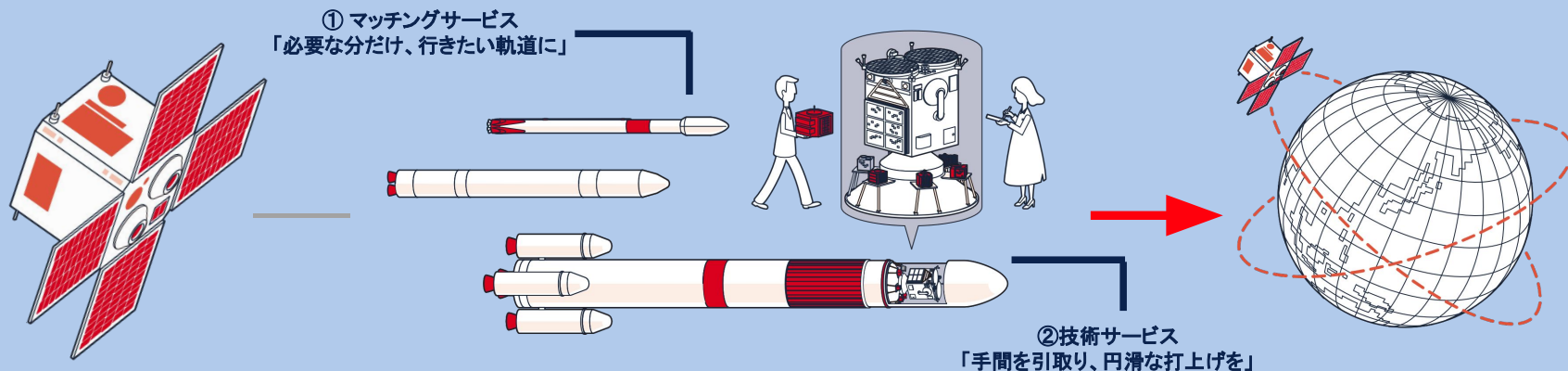
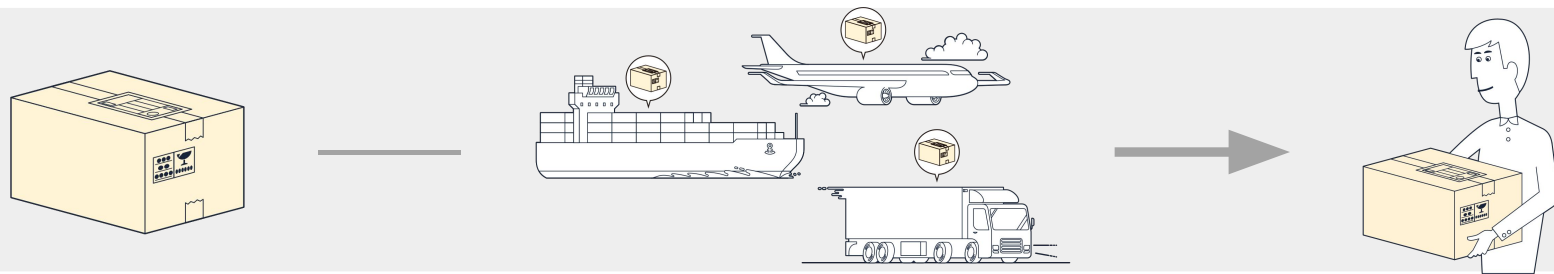
従 業 員 : 80人



永崎 将利 Space BD株式会社 代表取締役社長

福岡県北九州市出身。早大（教育）卒。三井物産で人事、鉄鋼貿易、鉄鉱石資源開発に従事、2013年独立。教育事業を手掛けた後、2017年9月にSpace BD設立。著書「小さな宇宙ベンチャーが起こしたキセキ」

荷物（超小型衛星など）を宇宙空間に届ける輸送事業。
当社提供価値は、輸送手段の仕入れ（の柔軟性）と技術サポート。





宇宙インフラ



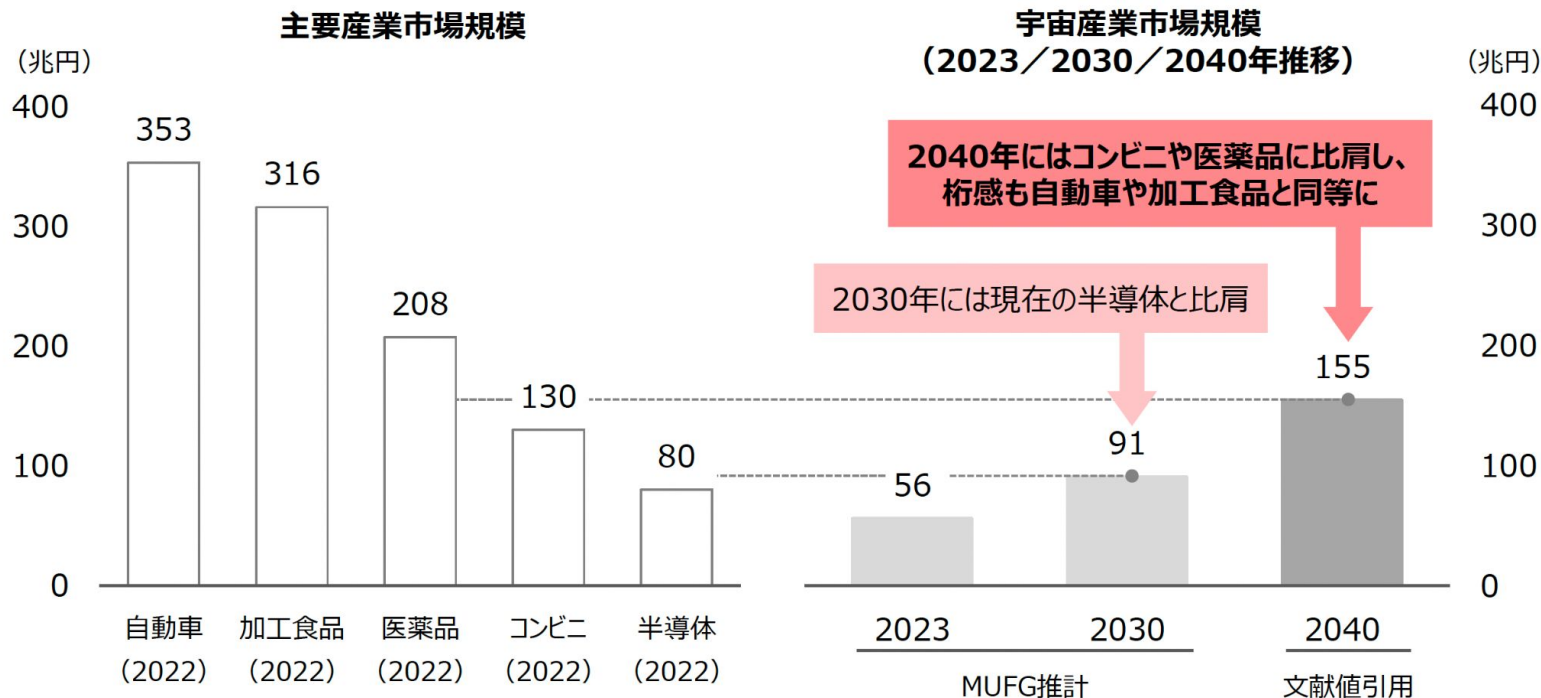
微小重力活用



教育・人材開発

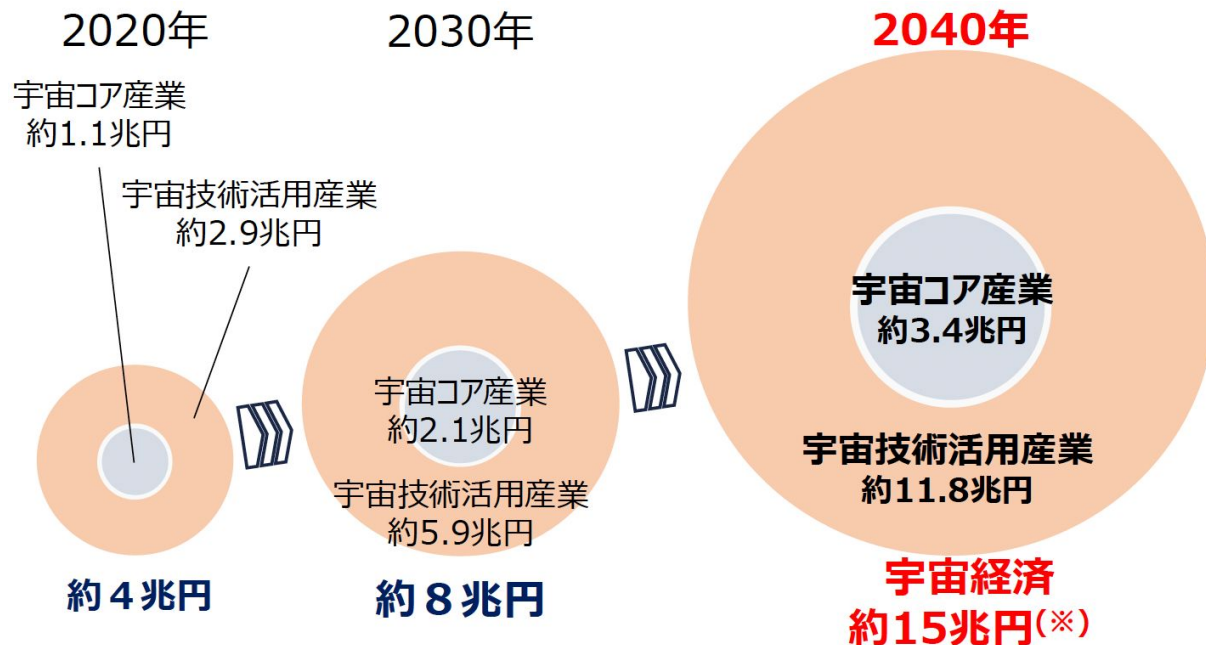
宇宙産業の 「今」

2023年時点の56兆円という市場規模は半導体産業と同等の規模であり、
2040年の約155兆円という規模は2020年前後の医薬品産業や家電産業にも比肩。



出典：経済産業省九州経済産業局「令和6年度市場競争環境評価調査（小型人工衛星等宇宙関連機器・部材の製造に関する品質水準・試験環境等調査）報告書」（令和7年2月28日）

宇宙基本計画（令和5年6月改定）にて2020年に4.0兆円となっている市場規模を、2030年代の早期に2倍の8.0兆円に拡大していくことを目標とする」と掲げている。



出典：内閣府宇宙開発戦略推進事務局「宇宙政策基礎資料」（2026年）

国内でも続々と増える宇宙関連企業。
宇宙開発はこの10年大きな転換期を迎えている。

Old Space（と言われたりする）

JAXA・政府機関

大手重電メーカー（三菱重工、NEC等）

国家予算

安全保障・科学技術の発展・国家の威信

10年単位／受託生産／
完璧主義／大型・高価格

主体

パートナー

資金

目的

開発

New Space（と言われたりする）

宇宙スタートアップ

異業種参入企業

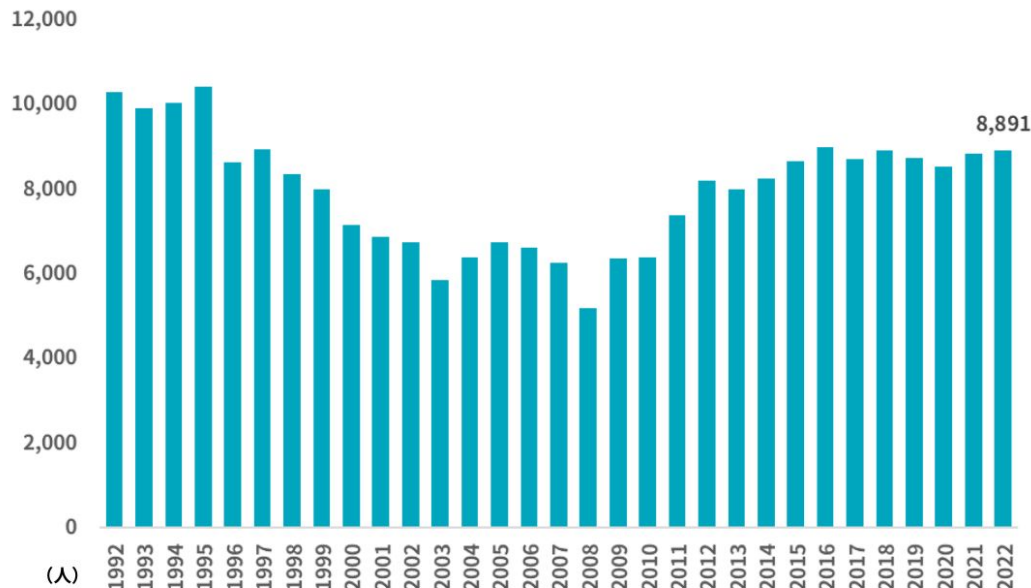
ベンチャーキャピタル、投資家

商業化・利益の創出・地上の課題解決

数か月～2年／自社開発／
アジャイル／小型・量産

一方で、国内市場における宇宙関連事業は横ばい。
8兆円に到達するためには、理論上“10万人”必要と言われている。

宇宙関連事業の従業員数の推移



※一般社団法人 日本航空宇宙工業会「航空宇宙産業データベース（令和7年8月発刊）」の統計情報をもとに宙畑で加工

出典：「異分野からのエンジニア転職が日本の宇宙産業成長の起爆剤」宇宙ビジネス時代に必要の人材と『宇宙スキル標準』が生まれるまで宙畑,
<https://sorabatake.jp/42799/>

宇宙産業参入

宇宙産業参入を後押しするための実践的なプログラム「HURDLES」。
入社後のオンボーディングから、地方中小企業の産業参入まで幅広く支援する。



衛星開発を、もっと手軽に、体系的に。

趙孟佑教授(千葉工業大学、九州工業大学所属)、株式会社アークエッジ・スペース協力のもと
開発した、CubeSatをコンセプトに衛星開発のノウハウを体系化したプログラム。

1講座から受講できるオンデマンド講座や対面型のワークショップ、
短期集中型ブートキャンプと多様なカリキュラムを展開。

内閣府宇宙戦略推進事務局にて策定された「宇宙スキル標準(※)」に準拠した学びは、
リスクリングや社内研修、プロジェクト運営、さらにはインターンシップと
衛星開発プロセスの基礎習得に貢献します。

※ 内閣府宇宙戦略推進事務局にて策定された「宇宙スキル標準」レベル1に相当

宇宙産業参入を後押しするための実践的なプログラム「HURDLES」。
入社後のオンボーディングから、地方中小企業の産業参入まで幅広く支援する。



衛星関連事業者

- 転職者のオンボーディング、社内リソースを使って研修する余裕がない
- 衛星開発人材の採用に苦戦している



宇宙ビジネス参入事業者

- 衛星を活用したビジネスに本腰を入れたいが、衛星開発のそもそもや検討事項がわからない



自治体・教育機関

- 産業支援や人材育成を行いたい、そのナレッジがない
- 支援を共創してくれる事業者がない

人材不足における課題は、マイクロレデンシャルが発揮する価値と親和性が良い。

人材流動性

スキルとは嗜好性・学び・経験の集大成

業界、産業によらない人材の流動性が、日本の産業発展に不可欠か（こと宇宙産業も異業界大歓迎）

経験可視化

一過性の学びから、一生涯の履歴書へ

いかにこれまでの嗜好性・学び・経験を可視化できるか（履歴書、職務経歴書に加わる第三の指標）

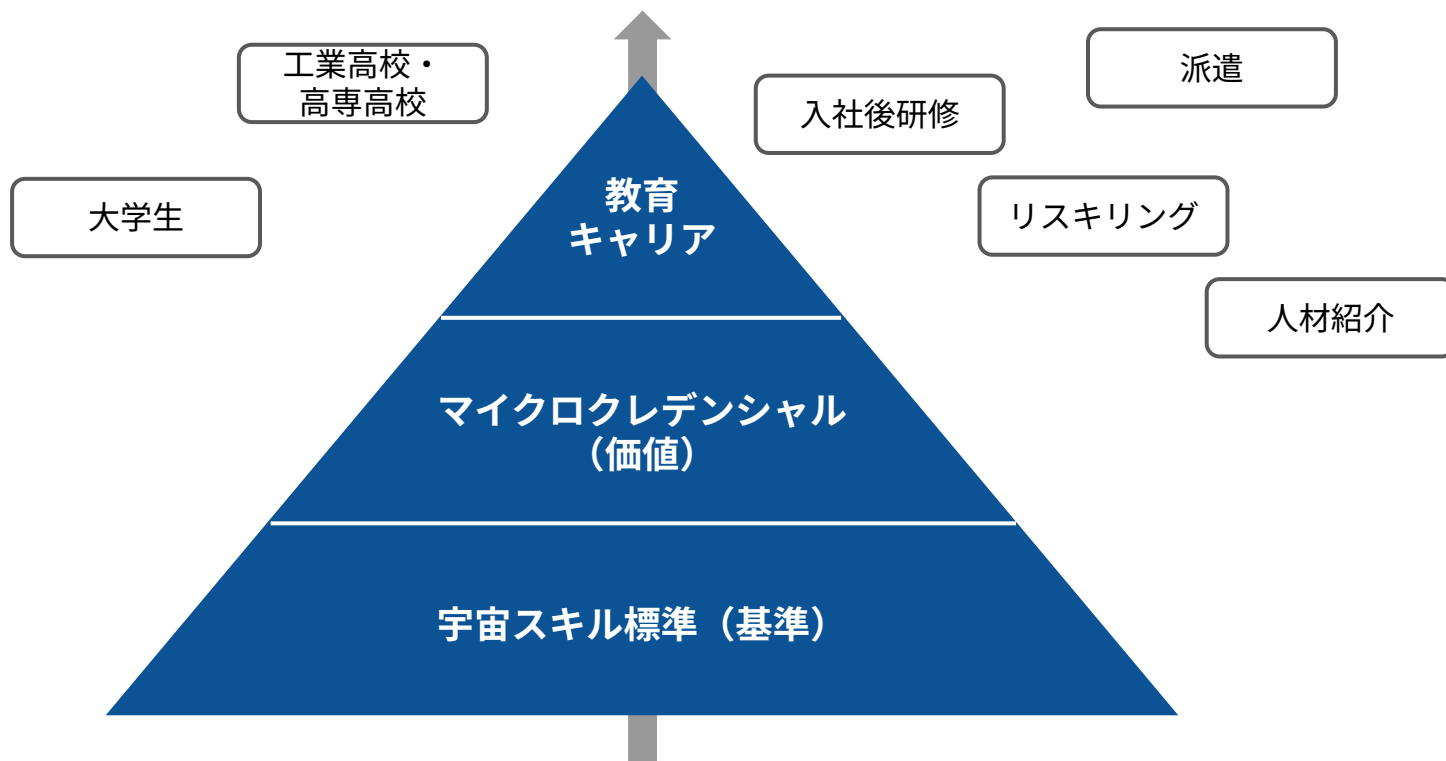
世界標準

国内外のHRトレンド

産業に国境はなく、いかにして良い人材を生み出し、獲得するか

17

宇宙スキル標準を基準としたマイクロ credenシャルの価値づけを行うことで、
教育・キャリア双方を地続きとした、「人材不足課題」に寄与したい。



**THANK
YOU**

